

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 藤村 敏幸

山名	黒部五郎岳・三俣蓮華岳・鷲羽岳・水晶岳等	山行名	黒部源流一周（個人山行）
ルート	折立口→太郎平小屋→黒部五郎小屋→雲ノ平小屋→太郎平小屋→折立口		
山行日	平成27年9月18日～23日	天候	5日連続晴れ
参加者	CL：藤村 SL：広瀬 男性：中島、佐坂、小川（写真）、西川 女性 上田秀子 合計 7名		

 <p>9月21日 鷲羽岳山頂にて</p>	コースタイム		三俣山荘着	7:24
	地名	時:分	鷲羽岳着	10:10
	9/18 京田辺発	18:05	水晶岳着	12:20
	立山駅前着	23:20	祖父岳着	15:00
	9/19 立山駅前発	6:35	雲ノ平山荘着	16:20
	折立口発	8:50	9/22 雲ノ平山荘発	5:35
	太郎平小屋着	14:50	尾崎氏介護後発	10:00
	9/20 太郎平小屋発	6:04	薬師沢小屋着	12:20
	北ノ俣岳着	8:00	太郎平小屋着	15:23
	黒部五郎岳着	12:10	9/23 太郎平小屋発	6:00
	黒部五郎小屋着	14:30	折立口着	9:11
	9/21 黒部五郎小屋発	3:50	京田辺着	17:00

9月になり秋雨前線の停滞や台風の影響など不順な天候が多く、大変心配していたが、晴天となり決行する。9/19 折立口から緩やかな登りを、何処までも続く登山者の列を前方に見ながら太郎平小屋までゆっくりと登る。9/20 は、爽やかな朝になり、雲海を見ながら広々とした稜線を気持ちよく歩き北ノ俣岳に着く、頂上からは、穂高連峰から剣岳までの北アルプス主峰を眺めることができ感動する。赤木岳から中俣乗越をすぎ、黒部五郎の手前で昼食とする。黒部五郎頂上まで標高差 300 メートルをほぼコースタイムで登り、黒部五郎の肩に到着する。荷物を置き、頂上までピストンする。その後名景のカールの中、紅葉した山麓を見ながら黒部五郎小屋に着く。小屋前は、宿泊予定者の列ができ定員の3倍の宿泊客で、布団1枚に2名が寝る鮎詰状態であった。9/21 は3時50分より濃い霧の中を歩き始め、巻道分岐を越え三俣蓮華岳の手前で朝食とする。濃い霧はやがて晴れ、雲ノ平、鷲羽岳、水晶岳がその姿を現し大展望を満喫する。三俣山荘で少し休み、最大の難所である鷲羽岳急登を、20分歩行5分休みのペースでゆっくりと登る。ワリモ岳を越えてワリモ北分岐に到着する。昼食後水晶岳まで3時間のピストン登山を行う。祖父岳を登り、長大な木道を通り雲ノ平小屋に到着する。約12時間の移動となる。220名（定員70名）と今年一番の宿泊客で、大混雑のなか酒の力を借りて就寝する。9/22 は5時35分に雲ノ平小屋を出発する。気温が0度近く、庭園の木道が霜に覆われ滑り安く何回も転倒する。アラスカ庭園を過ぎた所で、前を行く若者（尾崎氏）が激しく転倒する。手から血を流し、意識も朦朧としていた。後続の登山者と協力し応急措置をする。頭を打っている可能性もあり寝かせる。雲ノ平小屋へ行く登山者に救助の伝言を託す。2時間ほどして小屋の救助隊が到着し、怪我人の状況を把握しヘリコプターを呼ぶ。濡れた岩や木の根の多い悪路を、薬師沢まで慎重に下山する。昼食後、美しい紅葉を見ながら、平坦な木道を気持ちよく第三徒渉点まで行く、そこからの急坂を一気に登り太郎平小屋に着く。9/23 は秋晴の中、御来光を拝み、残念ながら登れなかった薬師岳の雄大な山容に別れ告げ、また来ると誓い、折立口まで帰る。5日間で45.7キロ、快晴に恵まれ、絶景を見ながら、色々と笑い話をし、楽しく踏破できた。

ヒヤリハット 凍結した木道から滑落し、軽度の頸椎損傷

鷲羽岳

三俣蓮華岳

黒部五郎岳

赤木岳

北ノ股岳

太郎山



太郎平から見た山波



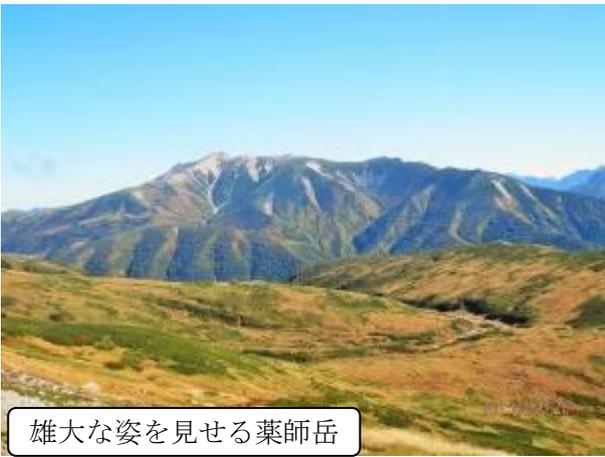
雲がたなびく雲の平

2015/09/19



遠くに槍の鋭鋒が...

2015/09/19



雄大な姿を見せる薬師岳



黒部五郎カールの紅葉



三俣蓮華岳から見た槍・穂高連峰



三俣山荘と鷲羽岳